

バンクーバー市公園行政の変遷にみる 公園・レクリエーション管理の特質

金子 忠一*

(平成 13 年 5 月 31 日受付/平成 13 年 7 月 19 日受理)

要約：公園管理の時代を迎えたわが国の公園緑地行政は新たな潮流を迎えているが、わが国の都市公園管理と北米諸都市に展開している公園・レクリエーション管理の概念は大きく異なっている。本研究では、新たな局面にあるわが国の都市公園管理のあり方を模索する上で、一つの示唆を得ることを目的として、北米型パークシステムの一つであるバンクーバー市の都市公園を対象として、公園が発祥した 1888 年から 1995 年までの公園整備の推移、公園・レクリエーション管理行政における特異点を時系列的に分析し、「公園・レクリエーション管理」の特質を究明した。その結果、維持管理を中心に展開したわが国と比較すると、1) 公園発祥初期から公園部局において「レクリエーション」の側面が明確に位置づけられ、公園管理体制としても教育部局など関連部局との相互協力体制が確立していたこと。2) アメリカの先進都市を範としながら、公園・レクリエーション管理システムを確立し、公園発祥当時から、レクリエーション・サービスに関わる職能が確立されていたこと。さらに 3) 職員研修システムも確立され、多様な性格のレクリエーションプログラムによる市民サービスが行なわれていたことが明らかとなった。

キーワード：公園管理、公園・レクリエーション、都市公園、公園史、バンクーバー市

緒 言

わが国の公園緑地行政は新たな潮流を迎えている。ライフスタイルの変容、そしてレクリエーション需要が多様化する中で、都市公園に関わる課題も公園地の拡大や施設・設備の建設から、公園の利用促進や管理運営へと大きく変わってきている¹⁾。1873 (明治 6) 年の太政官布告以来、わが国の都市公園の歴史は百数十年を有しているが、公園管理を考えると、北米諸都市のそれとを比較すると異なった展開をしている。わが国の都市公園整備を顧みると、一人当たりの公園面積を整備の指標値あるいは目標値として公園整備がなされてきた。このことは「公園」というオープンスペース空間の確保が第一義に進められてきたともいえ、これは都市公園事業費における公園整備費と維持管理費の推移からも推測できる^{2,3)}。そうした背景の中で、わが国における公園管理は「公園」という施設空間の物的な維持を目標とした施設管理や利用管理が行われてきたと言っても過言ではない。結果として、北米において確立されている公園管理の側面とレクリエーション管理の側面を一体とした管理運営、すなわち「公園・レクリエーション管理」(Parks and Recreation Administration) という概念が、わが国の公園緑地行政においては、進展しなかったと考えられる。

しかし、余暇の時代を迎えた今日、公園利用をはじめとしてアウトドア・レクリエーション需要は高まり、公園管理行政においてもレクリエーションへの積極的対応が重要

な課題となっており、あらためて「公園・レクリエーション管理」概念においては先駆的である北米の都市公園システムから学ぶことは多いといえる。

1. 研究の課題と対象

こうした背景をふまえると、北米における都市公園システムにおける「公園・レクリエーション管理」概念の特質を明らかにすることは、新たな局面にあるわが国の都市公園管理のあり方を模索する一つの示唆を与えるものと考えられる。そこで本研究では、北米都市の一つであるカナダ・バンクーバー市を事例として、公園の発祥から今日までの公園整備推移、当該市における公園・レクリエーション管理行政における特異点を時系列的に分析し、これらをふまえてバンクーバー市の公園・レクリエーション管理の特質を明らかにするものである。研究対象としたバンクーバー市は、人口 47 万 8,000 人 (1995 年現在)、面積 116.1 km² を有するが、この都市の公園史は、市内にある約 400 ヘクタールの土地を 1888 年に公園として市民の利用に供したことに始まる。また、この都市のパークシステムは、アメリカ諸都市のパークシステムを範としながら、典型的な分散型の公園配置計画による整備が進められ、今日までに約 110 年の歴史を築いている³⁾。すなわち、わが国と比較すると、公園史発祥の時期、都市の面積や人口の規模、公園配置などにおいて類似性、共通性が高いことから、研究対象として選定した。なお、ここで対象とするパークシステムとは、現況のカナダの公園体系において国立公園、

* 東京農業大学地域環境科学部造園科学科

州立公園、地域公園に次ぐ下位概念にある都市公園としての位置づけにあるものである。

2. 公園・レクリエーション管理システムの現状

1995年現在、バンクーバー市の都市公園は、164カ所、1,249.33 haの公園が整備されている。これは、市域面積の10.8%、人口一人当たりの公園面積にして26.1 m²に相当する。また、図1の公園分布図に示されるように市域全域にほぼ平均的に公園が分散分布している。これらの公園内の施設特性をみると、公園数に対しての施設数から1公園あたりの施設整備率を算出してみると、最も高いのが遊び場(0.66)であり、全体の半数以上の公園に整備されている。これについて高い施設が、フィールドハウス(0.39) サッ

カー施設(0.35) ソフトボール施設(0.27) テニスコート(0.26)、徒渉池(0.24)で、ほぼ4公園に1公園の割合で整備されていることになる。さらに続くのが野球場(0.15) 水泳プール(0.10) ラグビー施設(0.10)となっている。

これらの公園を所管しているのが市の公園・レクリエーション局であり、選挙により選出された7名の公園委員と一般職員から構成される組織体制である。バンクーバー市市民憲章及び公園管理条例に基づく権限を有する公園管理官を最高責任者として、財政部門、総務部門、レクリエーションサービス部門、施設維持管理部門、計画・設計部門の5部局から組織構成され、専任職員約600名、非常勤職員は季節変動があり約700名から繁忙期には1,200名が雇用されている。さらにこの他に数値上には現れない数多く

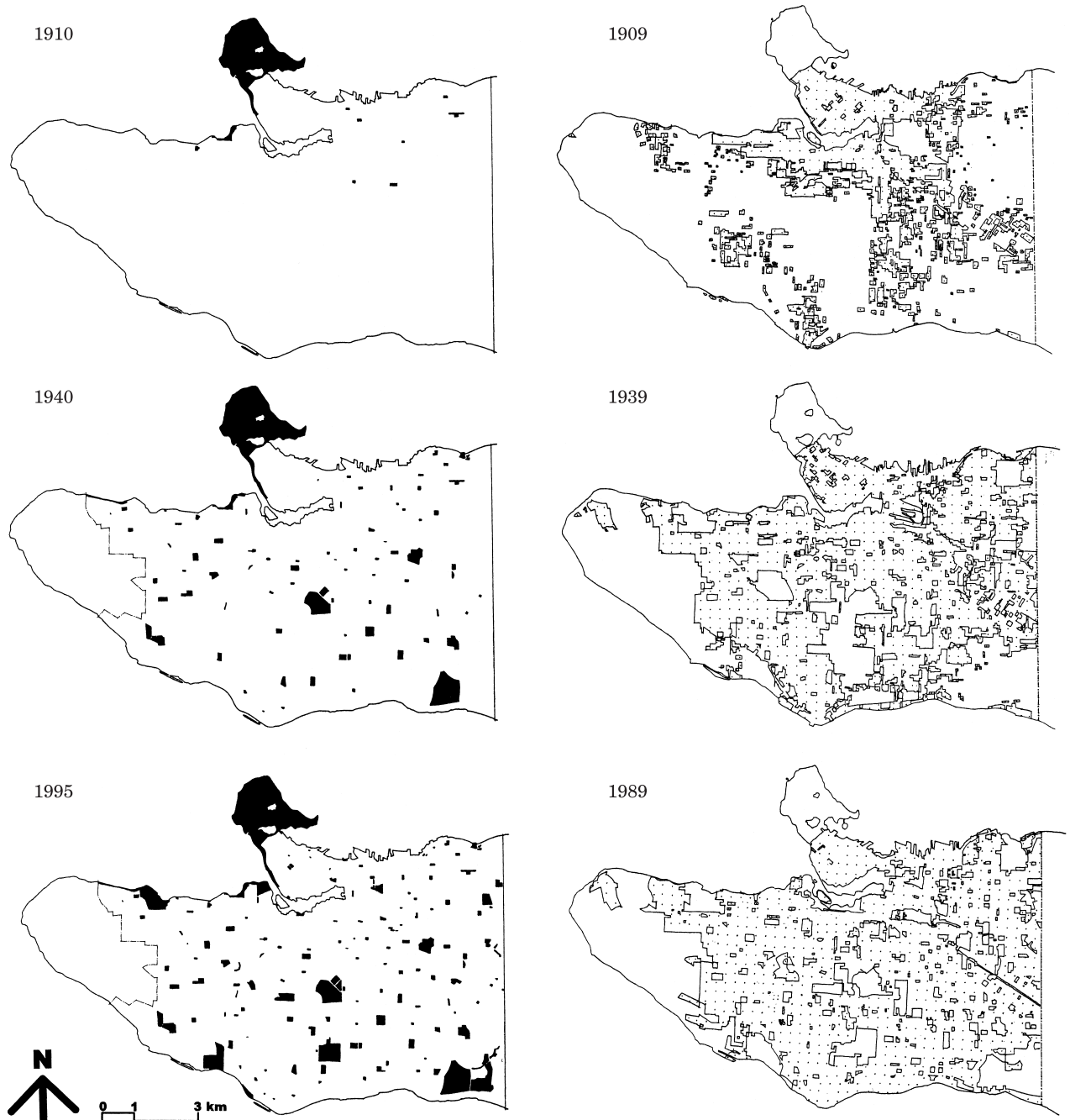


図1 バンクーバー市の公園分布(左)と市街地(右)の変遷

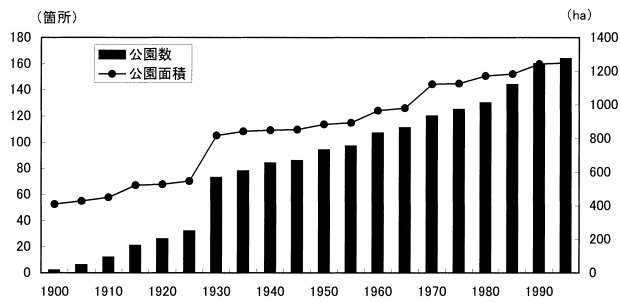


図2 バンクーバー市の公園整備の推移

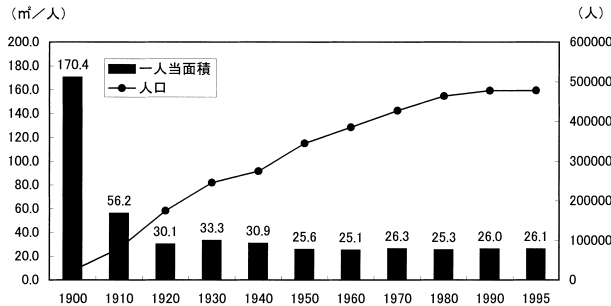


図3 バンクーバー市の人口と一人当公園面積の推移

の市民がボランティアとして利用指導などに参画している。

3. 公園整備の推移

「Vancouver: A Visual History」¹²⁾にある1909年、1939年、1989年の土地利用図をもとにした市街地状況図を基図として、1995年発行の公園一覧⁵⁾の公園開設年をもとにした1910年、1940年、1995年の各年における公園分布図を作成し、公園整備の変遷として示したのが図1である。また、この図作成のデータをもとに、整備された公園数と公園面積の推移を時系列的に示したのが図2、都市人口一人当たりの公園面積の推移を示したのが図3である。1900年には既に総面積は400 haを越えており、当時の人口一人当たりの公園面積を算出すると170 m²と極めて高い値となっている。しかし、このうちの99%はバンクーバー市の都市公園第1号であるスタンレー公園でしめられている。その後の整備推移をみると公園数、公園面積とも1925年から1930年の間に著しく増加しているのが特徴的である。また、1940年までに現存する公園の約半数である84カ所が整備されているが、公園面積をみると既に67.9%に達している。このことは、バンクーバー市の都市公園史は、その発祥からおおよそ100年であるから、これまでの中間時点を分岐点として後半世紀は小規模な公園の整備であったと考察される。そこで同様に公園一覧⁵⁾をもとに公園規模別の公園開設数の推移を示したのが表1である。公園面積10 ha以上の大規模な公園が12.2%、2.0~10.0 haの中規模公園が34.8%、2.0 ha未満の小規模の公園が53.0%という構成比になっている。これらを時系列的にみると4つの特色を見いだすことができる。一つは、1910年以前で、公園数は少ないがバンクーバー市のパークシステムの骨格とな

表1 バンクーバー市の規模別公園整備の推移

開設年	50ha以上	50-10ha	10-4.0ha	4.0-2.0ha	2.0-0.5ha	0.5ha未満	公園数計(箇所)	公園数比	公園面積(ha)	公園面積比
-1910	1	2	2	0	7	0	12	7.3%	449.30	36.0%
1911-1920	1	0	2	0	10	0	13	7.9%	77.55	6.2%
1921-1930	1	5	12	9	16	5	48	29.3%	291.11	23.3%
1931-1940	0	0	3	3	4	1	11	6.7%	30.63	2.5%
1941-1950	0	1	1	6	3	0	11	6.7%	39.39	3.2%
1951-1960	1	0	2	3	4	2	12	7.3%	77.24	6.2%
1961-1970	1	3	2	3	4	0	13	7.9%	156.31	12.5%
1971-1980	0	2	2	1	3	2	10	6.1%	50.39	4.0%
1981-	0	2	2	4	7	19	34	20.7%	77.41	6.2%
計	5	15	28	29	58	29	164	100%	1,249.33	100%

るような大きな公園が整備されている。2つは1921年から1930年であり公園数、公園面積ともに市の公園整備史上、拡大期といえ、この10年間に現在の四分の一強の公園が整備されている。3つは1961年から1970年であり、整備公園数は少ないが大面積の公園整備が特徴的である。そして4つは1981年以降である。現存する公園の箇所数比にして20.7%がこの時期に整備されているが、面積比では僅か6.2%に止まっている。公園規模0.5 ha未満の公園の65.5% (箇所数比)がこの時期に整備されており、小規模公園整備の時代といえる。

また、図1の公園分布と市街地の変遷図に示されるように市街地の拡大に応じて、公園も市域全体に拡大分布している。前述したように1940年時点までに開設された公園は箇所数比で51.2%、面積比で67.9%であるが、この時点で既に分散配置型パークシステムの骨格となる大規模公園の整備が終了していることが明らかであり、それ以降の50年間で、小規模な公園がそれらの空域を埋めるようなかたちで整備されている。

4. 公園・レクリエーション行政の変遷にみる公園管理の特質

バンクーバー市の都市公園の歴史は、1886年に市内に存した広大な自然地を公園化する請願が市議会から出されることに始まっている。ここでは、それ以来現在までの公園・レクリエーション管理行政の実状を「管理体制に関わる事項」「施設整備に関わる事項」「レクリエーション(利用)に関わる事項」の3つの視点から捉えて、その時代的な特徴を公園整備の推移と対照して明らかにする。分析の基礎データは、参考文献5)~12)に示した公園関連資料によるものとし、表2に示す年表に整理し、歴史的な変遷にみる時代的な特質を見いだした。

1) 第一号公園であるスタンレー公園が1888年に開園し、公園・レクリエーション局の歴史は始まるが、1910年までの当初二十年間は、公園・レクリエーション管理の萌芽期といえ、この間に二つの性格の公園があらわれた。一つは初期において自然の樹林地や海浜など自然資源に依存した公園、他の一つは1900年以降になって市街地内に整備された運動場としての小公園である。この頃の利用は散策や水泳などが主であったとされるが、スタンレー公園の管理全般を担うパークレンジャー(1890年)や水泳指導員(1900年)などが採用され、公園部局に既にレクリエー

表 2 バンクーバー市公園行政の変遷における公園管理に関する特記事項

年代	管理体制に関わる事項	施設整備に関わる事項	利用（レクリエーション）に関わる事項
1886		市議会は公園整備を請願し、翌年最初の公園地を借地することになる	
1888	最初の公園委員会（6名で構成）が開かれる	第1号の公園をスタンレーパークと命名して開園する	
1889	Park Ranger（パークレンジャー）が置かれる		
1892		公園委員会がスタンレーパーク内の建物の建築を禁止する	都市公園内で音楽コンサートなどを認める
1900	水泳インストラクターが採用される（専任職員ではない）		
1902		初めて都市公園のための用地が買収される	
1904	Superintendent（公園局長）が置かれる		
1905	犬に関する規則が制定される	レクリエーション施設としてフットボールのためのボールが設けられる	音楽コンサートの夏期プログラムを設ける
1906	公園条例が制定される		
1907		遊び場施設としてブランコ（6基）が設置される	
1908	ランドスケープデザイナーとして建築家が採用される		
1910		テニスコート、子どもの遊び場、徒渉池など公園施設が初めて設置される	公園利用のあり方（動的利用と静的利用）について論争が起る
1911	公園局が遊び場の管理委員会を初めて公認する。これがバンクーバー市における子供のためレクリエーションの始まりに影響する	公園計画の概念が初めて取り入れられる 市議会と公園計画委員会は公園局に系統的な公園地の選定を求める	
	公園年次報告書（Annual Report）が発行される	フィラデルフィア、ボストンなどのパークシステムを視察し、これがバンクーバーのパークシステムの範となる	
1912	レクリエーション専門職員が採用される	初めて公園が設計され（これまでは公園指定の概念）、遊び場が開園する	初めての公園レクリエーション調査として遊び場の利用実態が報告される
	専任職員として水泳インストラクターが採用される		
1913	総合レクリエーション職員（遊び場インストラクター）が採用される		
1914			初めてビーチ利用の実態調査がされる
1915		初めてボールグラウンドが設計される	スケートが公園レクリエーションの一つに認められる
1919		公園局がゴルフ場施設に関心をもち始める テニスコート使用料の請求を強いられる ボーリンググリーンが開設する アメリカのパークシステムを学ぶため公園管理官がタコマ、シアトル、スポークン、ベリングハムを視察する	
1921	Relief Worker（救済作業員）を雇用する		
1922		Gyro Clubが公園局のレクリエーション展開の基本方針を作成することになり、公園局との連携をはじめる	
1923		Gyro Clubによる遊び場が開設する	
1924	公園管理官に遊び場指導員（スタッフ）の雇用の権限が与えられる	Child Welfare Association（児童福祉協会）と City Sunday School（日曜学校）が日曜日の遊び場の開放を主張する	
1925		フィールドハウスが開設する	
1926			過度の日曜スポーツについての多くの意見や主張を受ける
1927		公園局と教育局がレクリエーションと教育の目的のある施設は両方で責務を担うこととする	
1928	7名の公園委員会委員の選挙がされる（4名は任期2年、3名は任期1年）		
1929	Gardener（維持管理担当職員）のための研修プログラムを始める 公園システムの拡張のため公園局スタッフの職務と責務を定形化し、条例によって項目を制定する		コミュニティフィールドハウスなど冬季の利用可能性について模索する
1931	Playground and Recreation の担当課（Department）が置かれる		実験的に冬季のフィールドハウスの活動を認める。遊び場（Playground）とレクリエーションの両部局が最初に関わる
1932		バンクーバー市のパークシステムの一環にゴルフコースを位置づける	公園局は教育局の同意を得た冬季レクリエーションプログラムを設け、実験的に公園局が運営する遊び場を認める
1933	交代制（嘱託）職員を雇用する		労働者スポーツ協会（Worker's Sports Association）が成人のためのプログラムを求める
1934	ロータリークラブがプレイグラウンド管理のための基金を設ける		
1935	政府のレクリエーション補助金が冬季利用に対して交付される	初のゴルフコース（パブリック）が開設する	
1937			Vancouver Sea Festival が開催され、翌年以降毎年開催される
1938		カーリングクラブの建築を認める	
1939	テニスの専門家を雇用する	非行犯罪に対応して遊び場建設の配置を始める	遊び場プログラムや明日の公園についてのラジオ放送を始める
1940		実験的に初めてビクトリア市との造園研修生の交流に同意する 公園局は議会に対し、公園内での民間会社の映画撮影を禁止するよう条例改正を求める	地元新聞社が無償で水泳指導を始める
1942		公園内には安い売店を設置するよう批判する	フォークフェスティバルが初めて開催される 日没後の個人などの水泳を認める
1943		初めての広域的な公園計画のための調査が実施される	
1944	コミュニティホールでのレクリエーション担当職員が不足する	教育局と公園局は学校グラウンドに隣接する遊び場について超過費用の分担方法を予告する	コミュニティホールにおいてレクリエーションプログラムのための教育を受けた職員が不足する

表 2 つづき

年代	管理体制に関わる事項	施設整備に関わる事項	利用（レクリエーション）に関わる事項
1945			公園局主催の絵画コンクールが成功を収め、翌年以降年間行事の一つになる
1946	多方面に権威のあるレクリエーション指導者の教育プログラムの創設が議論される		公園条例は、例外を除いて公園局の管轄の施設や公園での政治的集会の開催を禁止する 公園内での写真コンテストを後援することに合意する
1947	カナダ森林協会のジュニア森林監視員の協力を得てスタンレーパークのパトロール（火災や不審者など）を実施する	公園及びレクリエーションに関わる最低基準についての検討を始める	
1949	市民憲章の改正により公園局の権限が増す。公園局は音楽や演劇の活動を企画したり運営する事が認められ非営利団体や会社との協定に介入するための権限を有する	初のアイスリンクが開設する 初のコミュニティセンターが開設する	公園レクリエーション週間を初めて開催する
1951		遊び場利用のための公園、便所・ゴミ箱などを管理するためのフィールドハウスが開設される ボニー乗り場が開設される	ダム建設にともない建設後のスポーツフィッシングの場の確保を求める 公園での花火ショーが認められる
1952		支援団体による公園遊び場の施設整備への参画が増える	コミュニティセンター週間が初めて開催される
1953			初の遊び場交通安全スクールが交通安全委員会との合意により設けられる 地元新聞の協力により公園プールでの水泳教室が増える 公園内での乗馬が禁止または制限される
1954			
1955	隣接市域との境界にある公園建設について共同での計画と予算等分に合意する	ハンデキャプトのための設計方針を立てる	
1956	局の名称が Parks and Public Recreation に変更される 全ての公園での日光浴のための水着着用規則を改正する		
1958			市内の全ての浜辺に汚染が起り始める 1949年以降の公園調査を実施する
1959	議会がリージョナル公園委員会のために3名の代表者を選任するよう公園局に依頼する		
1960	大学での学習（研修）に奨励金を支給する。レクリエーション計画のUBCコースを取るコミュニティスタッフの授業料の半額を局が支給する 議会の承認なしで公園用地の購入することを公園局に認められるよう市民憲章を改正することを長官に指示する		視覚障害児のためのレクリエーションプログラムを始める
1962	研修プログラムを正式に創設する レクリエーションプログラムがテレビ放映される		年齢に配慮したレクリエーションプログラムの提供について議論される 公園委員会はハンデキャプトのためのレクリエーションサービスを特別に提案する
1963	州政府に対し、リージョナルパークシステムを請願す レクリエーションスタッフにハンデキャプトのためのレクリエーションプログラムの責務が明確に示される	市民マリナーが開設する	
1964	コンピュータコースを受講する職員を公認する		美術・工芸・ゲーム・語りべなどが子どもの遊び場を定期的に巡回する自動車が備えられ、移動車による遊び場運営が始まる 自然体験を与えるため遊び場でのデイキャンプを認める
1965		大規模住宅地開発において公園用地を確保する要綱に議会が合意する（20エーカー以上の分譲地開発では10%の公園用地を確保する）	YMCAプログラムを公園施設で実施することを認める ハンデキャプトのための水泳プログラムを設ける
1966	専任のレクリエーション情報案内スタッフが認められる		
1967	初の7名公園委員会の選挙がされる 公園委員会とは独立した非営利組織であるバンクーバー公園基金が創設される リージョナルパークが開設される		
1968		教育施設とレクリエーション施設の拡張・増設に関し教育委員会と公園委員会が共同で整備することに合意	
1969	浜辺（海水浴場）の汚染基準を取り入れる		
1970		公園局と教育局がプールと学校の一体整備に合意する	
1971	リージョナルパークディストリクトが設置される		
1972		住民1000人あたり5エーカー（一人当たり20.2㎡）の公園計画基準に改める	バンクーバー市民以外のプログラム参加を制限する
1973	公園レクリエーション計画への市民参加の明確な考え方を導入する		公園局により本格的なレストランが公園内に建設される
1974	社会福祉局と協同により広域レクリエーションサービスの調査を実施する	公園でのデイケアセンター設置を認める 初のサイクリングロードが開設する 袋小路などに小公園（Mini Park）の設置を認める バンデュッセン植物公園が開園される	公園や浜辺での素人によるパフォーマンスを認める
1975	局の名称が Parks and Recreationに変更する 公園レクリエーションの考え方や目標を明確にする		
1976			成年アイスホッケーのリンク利用を時間制限をして認める フォークフェスティバルを初めて開催する
1979	General Manager が置かれる マスタープランが策定される		
1981	レクリエーション施設の寄贈証明を導入する		
1983			無職者の水泳・スケートの無償利用を認める
1985			音楽などを流さないサイレントビーチを設ける
1987			公園やビーチでの飲酒の禁止を前提に特別な機会のみ各種屋内施設での飲酒を認める
1990	公園戦略計画が策定される		
1992	パークマネージメントプランが策定される		

ション対応の萌芽がみられる。

2) 1910年代になると計画的な公園配置や公園利用のあり方の検討、ビーチ利用の実態調査、アメリカの先進都市の視察を行うなど、バンクーバー市の公園・レクリエーション管理行政の基礎が確立された時期といえる。またこの時期には、テニスコート、遊び場、徒渉池、ボールグラウンド、ボーリンググリーンなどの多様な施設が導入され始める。また、1911年には年次報告が創刊されるなど都市公園行政の実質的なスタートともみることができる。

3) 1921年から1930年までの10年間は、遊び場を主とする公園整備期であり、特に1928年から1930年までの3年間に、5ha未満の小公園が32ヶ所整備されている。また、この時期の特記事項の一つは、公益組織であるジャイロ・クラブ (Gyro Club) の監理による遊び場の整備とプログラム運営である。この組織の活動が公園部局のレクリエーション管理の考え方の基本方針を樹立することになった。もう一つは、公園部局と教育部局との協力関係が始まったことであり、教育に関わるレクリエーション施設の整備、プログラム運営について両部局間での調整が積極的に行われるようになった。

4) 1931年になると遊び場及びレクリエーション課 (Department of Playground and Recreation) が創設され、この頃からフィールドハウス、プレイグラウンドをはじめ公園での様々なレクリエーションプログラムが多く検討されている。自然学習、スポーツ、ミュージック、フォトコンテストなどのプログラムやイベントが始められ、以降の定期的な年次プログラムの確立へと展開していった。こうしたレクリエーションプログラム重視の時期は1950年代まで続いている。なお、この頃は第二次世界大戦中の時期でもあり、新たに整備された公園数は極めて少数である。

5) 1956年に部局名称は、公園 (Parks) から公園及び公共レクリエーション (Parks and Public Recreation) に変更され、組織体制の充実期を迎えている。公園管理条例、市民憲章の再検討、さらに公園・レクリエーション担当スタッフの研修プログラム制度や関連専門知識の習得の奨励などを進めている。

6) 1960年代になると身障者など非健常者に対するレクリエーションプログラムが検討され、公園・レクリエーション施設へのフリーアクセスや利用プログラムが検討されている。

7) 1970年代になり、リージョナルパークシステムが確立すると、バンクーバー市の公園行政も新たな局面を迎え、公園・レクリエーション計画を見直す時代を迎える。組織においても管理責任者はパークレンジャー (Park Ranger) から、1904年に公園局長 (Superintendent) へ、そして1979年に公園管理官 (General Manager) へと変わり、所管組織下に管理運営・収益部門や調査部門が新たに設置されている。このことは、単なる所管部局の最上位責任者の立場から、経営的側面すなわち公園経営までも含めた権限を有したことを意味している。さらにマスタープラン (1979年・1982年)、パークマネジメントプラン (1992年) を調査報告書として取りまとめている。その中

での公園・レクリエーションに関わる事項として、マスタープランでは、公園の将来整備目標を明確に示すとともに、City-wide parks, Waterfront parks, Neighborhood parks, Mini-parks の四種の公園分類をかがけている。また、パークマネジメントプランでは、①公園及びオープンスペース取得、②公園整備、③レクリエーション施設整備、④レクリエーションプログラムの内容とサービス水準、それぞれの策定方針と具体的方策を示している。

5. 結 言

以上、公園・レクリエーション管理行政の先進地である北米都市のバンクーバー市を対象に、都市公園発祥以来の変遷の中で見いだされる公園・レクリエーション管理の特質を究明してきた。それを物的な維持管理や利用管理を中心に展開してきたわが国の都市公園管理行政と比較した結果、次に示す6つの項目が評価点として明らかになった。これらの特質は、公園管理の新たな局面を迎えているわが国の都市公園行政の一つの示唆をあたえると考えられる。

- 1) 公園及びレクリエーション関連の施設整備、ならびにレクリエーションプログラム策定において、行政組織内での公園部局と教育関連部局との相互の協力体制が早期から結ばれていること。
- 2) 組織体制において、早期から公園部局において「レクリエーション」の側面が明確に位置づけられ、部局では「遊び場・レクリエーション」が「課」として置かれ、後に「公園・公共レクリエーション部」、そして「公園・レクリエーション部」へと進展してきていること。また管理責任者の権限も拡大しており、その職名も「パークレンジャー (Park Ranger)」から「公園局長 (Park Superintendent)」、「公園管理官 (Park General Manager)」へと変わってきていること。
- 3) 公園計画において、パークシステム理論を重視し、ボストンなどアメリカの先進都市を範としながら、公園・レクリエーション管理システムを確立していること。
- 4) 公園発祥当時から、スポーツやレクリエーションに関わる責務が明確にされ、利用指導のためのスタッフなどレクリエーション担当職員の職能が確立されていること。
- 5) 公園部局職員の研修システムが確立され、研修プログラムの実施や、専門教育機関での知識習得を積極的に支援していること。
- 6) 夏期と冬期、大人と子供、ハンディキャプト、レクリエーション、スポーツなど多様な性格のレクリエーションプログラムによる市民サービスを行なっていること。

参考文献

- 1) 後藤和夫, 1996. 都市公園管理の今後の方向, 公園管理第11号, 38-45.
- 2) 後藤和夫, 2001. 公園整備の枠組みからマネジメント指向へ, 平成13年度日本造園学会全国大会分科会講演集, 90-94.
- 3) 金子忠一, 2000. 維持管理費用分析からみた都市公園管理の特性に関する考察, ランドスケープ研究 第63巻第5号, 671-674.

- 4) 養茂寿太郎, 1992. パンクーバー市公園管理条例の構成に関する考察, 日本造園学会関東支部大会研究報告要旨第10号, 40-41.
- 5) Board of Parks and Recreation, 1995. Parks & Facilities Chart.
- 6) The Vancouver Board of Parks and Recreation, 1988. The First 100 Years, The Vancouver Board of Parks and Recreation, pp. 281.
- 7) City of Vancouver, 1912. Second Annual Report, City of Vancouver, pp. 85.
- 8) The Vancouver Board of Parks and Recreation, 1982. Master Plan, The Vancouver Board of Parks and Recreation.
- 9) The Vancouver Board of Parks and Recreation, 1992. Management Plan, The Vancouver Board of Parks and Recreation, pp. 245.
- 10) The Vancouver Board of Parks and Recreation, 1994. Historical Park Development, The Vancouver Board of Parks and Recreation.
- 11) The Vancouver Board of Parks and Recreation, 1992. Park By-laws, City of Vancouver, pp38.
- 12) Brice Macdonald, 1992. Vancouver : A Visual History, Talonbooks, pp. 84.

A Study on the History of Parks and Recreation Management in the City of Vancouver

By

Tadakazu KANEKO*

(Received May 31, 2001/Accepted July 19, 2001)

Summary : The purpose of this study is to understand the historical character of parks and recreation management in the City of Vancouver, which is one of the City Park System in North America. The history of park development and parks & recreation management was traced. The Vancouver park system started in 1888 when Stanley Park, which is the most major park in this city was opened. A chronological table which extracted a special mention item from 1888 to 1995 was made. The focal points are management organization, facility development and recreation service. The results were as follows : 1) The Parks board co-operated in the development and management of parks/recreation program on any parks such as playground with the School Board. 2) "Recreation" was a very meaningful situation in park management from the early stages. A recreation section such as a playground & recreation was incorporated in the park management organization. This section name was changed from "playground & recreation" to "parks & public recreation", then "parks & recreation" with the age. The authority of the control in charge expanded. The job description was changed from "park ranger" to "park superintendent", "park general manager". 3) The policy of park planning and parks & recreation management was modeled on the American City Park System. 4) The duty of the staff member to instruct in its the use was cleared since the first city park opened. the board employed the staff to instruct recreation and sports. 5) The original training program was enforced by the Board, and study with the professional education organ was being supported actively. 6) The Board developed a variety of recreation programs for citizens such as programs for various age groups, a seasonal program, a handicapped program and so on.

Key Words : Park management, Parks & Recreation, City Parks, Park History, City of Vancouver

* Department of Landscape Architecture Science, Faculty of Regional Environment Science, Tokyo University of Agriculture